

学校法人 加寿美学園 坪井幼稚園
令和4年度自己評価についての報告

令和5年6月1日
坪井幼稚園

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、令和4年度の実情を分析した結果を以下の通り報告する。

1. 園の教育目標について

人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児の育成をめざす。

- 意欲・関心のある子ども
 - 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
 - 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
 - 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
 - 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
- よく考えて行動する子ども（態度）
 - 自ら健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
 - 言葉で経験を表現し、言葉で理解しようとする幼児。
 - 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
 - 自分で考えてものごとじょうにじっくり取り組む幼児。
- 心の豊かな子ども
 - 豊かな感性・創造性を持ち、素直に表現する幼児。
 - 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
 - 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 令和4年度 自己評価取り組み目標とねらい

自己評価の取り組みによって、教師としての保育姿勢や施設の環境構成、園の教育目標に合った教育内容等の見直しや自己反省を行い、自らの課題を設定し教師としての質を高めるための手立てとしたい。

3. 評価項目に対する取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1、保育の計画性	・本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに、身近な環境に関わり、充実を味わうことを求めているが、新型コロナウイルス感染予防も行いながら、臨機応変に対応して、昨年度中止していた保育計画を工夫し、復活して実践することができた。現状を把握しながら、実態に合わせた活動にすることによって、子どもの姿を捉え、適切な計画や指導を行うことができた。

<p>2、保育のあり方・子どもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の特色を生かした指導方法は、行事活動後の反省、課題を見つけ、新たな取り組みが実行できるように、対応を行った。 ・朝の登園時は、職員が正門の前で子どもを受け入れ、挨拶や 子どもの健康観察に力を入れた。新型コロナウイルス感染防止のため、体調管理の把握等を行う。また、各職員からの連絡・報告を徹底した。 ・保護者とのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築き、より良い関係作る。 ・子どもの安全については常に危機意識をもつよう心掛け、安心して園生活が送れるよう配慮や点検を行った。 ・個別指導が必要な子どもの対し、ケース検討会を実施し、職員で子どもの良さや困り感などを多面的にとらえ共通理解し、指導を行う上での参考にした。 ・異年齢関わりができるように、自由遊び時間を確保し、交流を図る。 ・さくら・さくらんぼのリズム運動を取り入れ、ひとり一人の発達状態を把握し、個別に課題を考え、寄り添いながら、発達を促していった。 ・遊びや生活体験の中で、体験を通して心豊かに育ち合える環境を工夫した。
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が専門職としての知識を広げ対応できるように、園内研修を行った。 ・園内研修では、歌を歌い子どもたちに指導する前に確認する。ケース検討会等では、意見を出し合い、保育のあり方について考える機会を設けていった。 ・組織として、報告・連絡・相談を重視していったが、数例報告を忘れていた場面が見られたため、自己反省・会議等でも話し合い改善をしていった。 ・保育活動の課題は、目標を明確にしているが、個々の成長発達に適している指導法が不足している部分は、保育者が連携して、サポート、助言を受け、指導法の質の向上に努め、相談できる職員間を築けるように関係作りを工夫した。 ・会議を通して意見を出しあえる環境作り、教師の共通理解の資質向上に努めた。
<p>4、保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を図るための情報の提供をより密にし、(クラス懇談会や個人面談)を行い、子どもの園での様子、家庭の様子など情報交換する。 ・園での様子はクラスだより・園だより・“つぼいっこ”・預かりだより等で知らせ、新型コロナ感染症予防のため、密を避けるため協力を求め、保護者参加を中止し、DVD撮影等を行い、園での様子を知らせていった。 ・教師は、明るい笑顔を心掛け、保護者の気持ちに寄り添う

<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症予防のため、園外保育等を中止した昨年に比べて、今年度は、場所を厳選しながら季節の自然に親しむ活動の実践を行うことができた。 ・地域との関りは、感染予防のため今年度も中止になったが、農園で育てた野菜等を頂いき、食を通して関係性を繋ぐことができた。 ・小学校との連携では、近隣の保育園と一緒に交流ができた。 ・就園前の親子を対象に園庭や保育室を解放は、感染予防し、工夫して数回実行する。
<p>6、研修と研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会は、新型コロナ感染症予防のため、zoomで行うことが多かったが、それぞれが意欲的に参加することができた。 ・年齢別のケース検討会を学期ごとに実施し、多方面から園児を捉え、職員間での共通理解し、保育に反映し取り組むことができた。 ・幼児の発達の姿を捉えるためにも、日々の子どもの姿について話し合う機会を持つ。毎週週案会議で保育内容を確認したことにより、報告、連絡、準備が計画的に行われた。
<p>7、教育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の教育目標に従い、教育課程を実施するために、コロナ禍の中、工夫しながら、子どもの発達や実態に応じた内容になるよう計画し、ねらい、指導方法、配慮点など細かく話し合いを行なった。行事前後に欠席をする子どもに対して、保育目標に達していないことがあり、見直しが必要で今後の課題となった。行事前の準備等が不足することも見られたため、反省評価を来年度に生かしていきたい。 ・食育は、年長児を中心に会食活動を通して季節の食材を使って教育活動につなげる。園の畑を整備し、身近に植物を育て、成長過程を見られる環境を作り、収穫の喜びと共に活動意欲になった。 ・教師は人的環境であることを自覚し、子どもたちの心の育ちに寄り添い保育内容を充実していくことができた。
<p>8、地域の幼児教育センターとしての役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターに通級している幼児に対し、訪問や観察・意見交換会などを行いながら、目標や支援方法を行うことで園と専門機関との関係性を深めていく。 ・未就園児保育体験は、新型コロナ感染予防をしながら、園を少しずつ開放していく。参加者は10名程であった。保護者の悩み相談に応えるなど、地域の子育て支援としての役割を果たすことができた。
<p>9、安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画作成し、避難訓練は、3か月に1回計画的に訓練を行う。プール活動前には、救急法など研修をうけ、安全対策を確認することができた。全園児対象に、交通

	<p>安全教育・水難事故教育・火災地震・防犯訓練等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者の侵入防止や、道路に面しているため門扉に数か所施錠を行う。 ・出入りの多い時間帯は職員が門に立ち園児の安全に配慮した。しかし、保護者の出入りの際鍵の施錠の徹底がない時もあるため、施錠の徹底を強化することが、課題となった。 ・学校保健安全法に規定して、薬剤師による定期的に環境衛生検査点検を行い環境衛生の維持・改善を図ることができた。 ・新型コロナ感染予防のため、登園、来園の際は、顔認証AIカメラで体温をチェックし、健康観察や手指消毒の徹底など感染予防を行う。 ・防犯カメラの設置により、ヒヤリハットが起きた場合、カメラで確認するなど原因等の検証、対処を行い、職員間でも話し合いを行い、再発防止に努める事ができた。
<p>10、財務管理</p>	<p>公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。</p>

4. 総合的な評価結果

<p>コロナ禍で、昨年度は中止していた活動も、少しずつ内容は工夫して、保育を進めていくことができた。保護者以外の園行事の参加等は、今年度も中止し、安全性を第一に考えた。保育の取り組みに関しては、保護者へ説明責任をしっかりと行い、保護者の意見等を検討、理解、寄り添うことで信頼関係を築くことができた。また、保育を振り返り反省、評価を行い、指導法や教育内容見直しができ、来年度の課題等が明確に確認できた。職員間で意見交換や共通理解や実践教育の向上に努めるためにも、担任以外のサブ教師も積極的に保育をサポートし充実した保育ができた。報告、連絡等のミスは、全職員に今後の課題として取り組んでいく。</p> <p>環境面では新型コロナ感染予防のため、備品の準備や補充、園舎の点検・遊具の点検・動物の衛生管理・害虫駆除等を定期的に行うことができ安全面に強化できた。園舎は掃除を丁寧十分に準備し活用したり、職員はマスクをつけ対応したが、子どもたちのマスクに関しては自由に緩和したり対応を柔軟にすることができた。</p> <p>教職員の資質向上に努め、職員集団のチームワーク作りに関して、保護者からも高い評価をいただくことができた。園の教育を継続、発展させていくためにも、切磋琢磨し、努力を更に続けていく必要がある。</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	園行事の様子は、Instagramの活用をして、園の保育実践を公開する
現在の取り組みの見直しと新しい取り組みの検討	質の高い保育を充実させるために、実施内容を増やすこにならないよう、これまでのカリキュラムを見直し、教育目標を念頭に保育計画を立案実施していく。
自己点検、自己評価	園内・園外研修の充実し、共通理解できるように研修発表を行い、意見交換を強化し、教職員の技術向上を目指す。・職員の心身健康保持と増進